

## 別紙1

令和2年度事業報告書  
令和2年4月1日～令和3年3月31日

特定非営利活動法人 E CO フューチャーとっとり

### 1 取組成果

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター（以下「センター」）は、鳥取県におけるゼロカーボン社会の実現に向けて、人や組織が出会い、対話し、課題解決をするための機会や仕組みを創ることによって、多様な階層（セグメント）の参加による市民力の創出に寄与し、鳥取県における地球温暖化防止活動の推進に貢献することを目的として事業を展開している。

令和2年度は、5つの個別事業を展開した。（1）「地球温暖化防止活動推進事業等の業務」は、地球温暖化防止活動推進センター運営の本体となるものであり、地球温暖化防止に係る情報の発信や鳥取県地球温暖化防止活動推進員の養成及び活動支援を行った。また、この委託内で環境について専門的知識を有し環境教育実践経験のある人材を広く県民に紹介するとともに研修の機会を提供する「とっとり環境教育・学習アドバイザー制度」の運用を実施した。幼稚園児・保育園児や小学生を対象にし、子どもたちを通じて各家庭の温暖化対策の取組を推進することも目的に実施した温暖化防止環境教育（2）「ちびっ子エコスタート事業及びエコ活ノート出前教室」と、県内の再エネ取り組みへの理解促進のための主に小学5・6年生を対象にした（3）「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」も実施した。加えて鳥取県の「ゼロカーボンシティ宣言」実施に関連した（4）「チーム『とっとりゼロ・カーボン・チャレンジ』運営業務」も実施した。さらに、環境省の（5）「地域における地球温暖化防止活動」の補助事業については、「テレワークの促進」をテーマにした特別提案事業も採択され、通常補助事業も含め多様なアクターとともに取組んだ。

### 2 個別事業

- （1）「地球温暖化防止推進事業等の業務」
- （2）「ちびっ子エコスタート事業及びエコ活ノート出前教室」
- （3）「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」
- （4）「チーム『とっとりゼロ・カーボン・チャレンジ』運営業務」
- （5）「地域における地球温暖化防止活動促進事業」

以下、個表の通り

令和2年度（令和元年度）特定非営利活動法人 ECO フューチャーとっとり事業報告書  
 (個表)

事業名	地球温暖化防止推進事業等の業務
事業内容及び成果等	<p>1 地球温暖化防止推進事業</p> <p>気象庁（2020年）によると、2019年の世界平均気温は、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となり、世界各地で異常気象が頻発した。日本では台風15号をはじめ、複数の気象災害が発生し、社会経済的に甚大な被害を与えた。世界に目を向けると、アマゾンやオーストラリアでの森林火災、欧州を襲った熱波など、温暖化の影響が顕在化してきている。異常気象の増加に伴い、気候変動対策への期待は高まっている。グローバル気候マーチや世界経済フォーラムのグローバルリスク報告書などからも分かるように、環境関連リスクの高さが注目を集めた。</p> <p>一方、2020年、パリ協定の本格的な運用が開始された。パリ協定目標達成のためには、地域でのエネルギー起源二酸化炭素排出抑制が重要である。日本の削減目標は2013年比で、2030年までに26%（2021.4月に46%に引上げ）であり、民生部門においては約40%削減が期待されている。さらに鳥取県は「令和新時代とっとり環境イニシアティブプラン」の中で、全国でも先駆けて2050年にゼロカーボンの宣言をし、あらゆる手段で脱炭素社会への構築を目指すとしている。</p> <p>このように、ボトムアップ、トップダウン双方のアプローチによる気候リスクへのプライオリティは確実に上昇してきているなか、本事業はエネルギー起源二酸化炭素排出の抑制に資することで、パリ協定の目標達成へ貢献し、グリーン経済、脱炭素社会構築の一助となることを目指している。それには一見CO2排出削減とは無関係に思えるような従来関心の薄かった主体と積極的に連携し、「持続可能な社会」という目標を共有することが重要である。それらの団体と一緒に効果的な普及啓発活動を推進することが、草の根から脱炭素社会構築への機運を高めることにつながると考える。</p> <p>また、温暖化対策に関する社会的受容性を高め、仕組みづくりへつなぐためには、温暖化対策が我慢ではなく、県民の生活の質を向上させ、地域の経済循環を促し、持続可能な社会構築につながっていることが実感できるよう、体験的なコミュニケーションを通し楽しさや心地よさ、便利さなどへの実感をもとにした共感の輪を広げることが、小さな鳥取県においては特に重要である。</p> <p>同時に、新型コロナウイルス禍が、否が応でも外出自粛やテレワーク、在宅など低炭素な暮らしにつながる行動を全ての人に経験させることとなったが、終息後も新しい生活様式として根付かせることも地球温暖化防止の普及啓発の重要な役割であることを自覚して事業を実施した。</p>

(1) 家庭・地域で地球温暖化防止につながるライフスタイルやワークスタイルを県内に広く提案し、実践を促すための普及啓発活動

ア 地域での温暖化防止活動の情報共有及び県内外への発信

地球温暖化防止に関する情報やこれらの地域の取組を、鳥取県地球温暖化防止活動推進員を含めた県内外から発掘・収集し、ニュースレター、ホームページ、Facebook、新聞紙面等各種メディアを活用しながら、県内に対しては情報の共有を図り県外に対しては情報発信を適宜行った。

- ・ニュースレター 配信 5回×約350通
- ・ホームページ 随時更新
- ・フェイスブック 随時更新(投稿数 191回)
- ・新聞原稿提供 とっとりエコ検定 3回  
「とっとりグリーンウェイブ」 9回
- ・メディア出演 「ダラズFM」週1回(木曜日 10:30～11:00)

「BSS はてはてな」6月

イ 昨今の地球温暖化問題に係る国際情勢などの最新情報や行政施策の情報収集及び収集した情報の県民への周知

地球温暖化防止施策や国際情勢など、昨今の情報を環境関連セミナーは元より環境省・国立環境研究所・公益財団法人地球環境戦略機構・大学他から収集し、メールニュースやホームページ等により適宜情報発信を行った。またイベントを通して、多くの県民に顔の見える距離(Face to Face)できめ細かに情報を提供する機会を持った。

情報収集

- ・環境関連セミナー等への参加 14回

県民への周知

- ・メールニュース 配信 7回×約350通
- ・フェイスブック 投稿数 計42回
- ・ホームページ 更新随時
- ・セミナー・講演会等の開催・講師派遣 11件

ウ イベント等での県民への効果的な省エネ対策の提案

- ・断熱ワークショップ等に参加してもらった。

(2) 温暖化防止に係る知識とファシリテーション技術を持ち、地域における温暖化防止活動をリードする県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員」という。)の育成

推進員養成研修は、オンラインで開催した。

必修講座の内容は、地球温暖化の科学的知見と最新情報、更に地球温暖化防止に関わる地域の実例と環境教育活動の実際を、(合計36名の受講申込があった。受講修了者22名(うち現役推進員12名)、推進員候補申込者15名であった。

)

ア 推進員養成研修の実施

第11期推進員養成研修として

オンライン開催でEラーニングシステムを活用し受講者の受講状況を管理した。

内容及び講師は以下の通り。

- ・「気候変動の現状と将来予測」(60分)  
講師：鳥取气象台 宮廻祐一氏
- ・「鳥取県の温暖化対策：令和新時代とっとり環境イニシアティブプランととっとりエコサポーターズ制度とその活動」(60分)  
講師：鳥取県低炭素推進課 山本尚生氏
- ・「地球温暖化の基本的知見と対策の方向性」(90分)  
講師：国立環境研究所 地球環境研究センター  
副センター長 江守正多氏
- ・オンライン会議型ワークショップによる普及方法習得研修  
オンラインワークショップ  
「コロナの時代で必要とされるオンラインの学びや対話の場の可能性とは？(概論とプログラムの体験)」  
講師：JUNEC-こども国連環境会議推進協議会  
事務局長 井澤友郭氏

イ 推進員スキルアップ研修の実施

推進員のスキルアップを図るため、スキルアップ研修会(共催シンポジウム・イベント展示を含め)を計5回行った。

ウ 推進員の活動に対する助言及び支援

推進員の活動に対する助言及び支援を図るため、「エコ端会議」と称する推進員の自主的なミーティングの開催を促した。尚、このエコ端会議は、2カ月に1回を目処に(東部・西部会場)開催(計8回開催)。

エ 推進員を活用し、市町村と連携したエネ活(家庭の省エネ・再エネ導入)の促進

様々なチャンネルを通して県内各市町村との連携を模索しながら、推進員を活用して様々なエコ活に関する相談を含め住民の方々への温暖化防止普及啓発活動の促進に努めた(計4回実施)。

オ 市町村との連携(合同ワークショップの開催)

県内各市町村と連携して研修会・学習会・ワークショップ等を開催(3回)した。

- ・とっとりローカル未来塾 12月14日 講師：谷口英雄氏
- ・とっとりローカル未来塾 2月 講師：安田 陽氏
- ・市町村連絡会議 1月 講師：歌川 学氏

カ 新規推進員の活動のきっかけづくり(情報交換会の開催)

新規推進員の活動のきっかけや情報交換の場をハイブリッ

ドで開催した。倉吉3月27日

## 2 とっとり環境教育・学習アドバイザー制度運用事業

環境について専門的知識を有する人材を広く県民に紹介することにより、体験を重視した環境教育を支援し、実践的、主体的な環境学習の促進を図る当制度の運用を以下のように実施した。

### (1) アドバイザー制度のPR業務

鳥取県地球温暖化防止活動推進センターのホームページを刷新し、とっとり環境教育・学習アドバイザー（以下、アドバイザー）制度が、ホームページTOPからアドバイザー制度説明ページに移れ、簡単にアドバイザー制度が理解出来るデザインとした。

### (2) アドバイザーの人材発掘

様々な機会を通じてアドバイザーの発掘を行い、4名の新規アドバイザー登録申請を行った。

### (3) アドバイザーと環境学習主催者との連絡調整業務

環境学習の主催者側からアドバイザーの紹介依頼を受けた場合は、主催者側が予定している環境学習内容に合致していると思われるアドバイザーの紹介を行った。同時に環境学習を企画する主催者団体・機関に対しては、学習内容・コンテンツ・ツールを含めた様々な提案・助言を行った。尚、環境学習に関するアドバイザーとの調整（内容・日程等）を行った上で主催者側にアドバイザーを紹介し、スムーズかつ学習効果の高い環境学習が開催出来る様に連絡調整を行った（アドバイザー紹介及び相談件数:6件）。

### (4) アドバイザーの活動状況把握業務

前年度期間中（平成30年4月1日～平成31年3月31日）の活動内容に関し、各アドバイザーから報告されたものについては、広くその内容を紹介すべくホームページに掲載した。

尚、本アドバイザーの活動概要については、令和元年6月30日付にて鳥取県生活環境部環境立県推進課に報告した。

### (5) アドバイザーの資質向上研修業務

環境学習会を実施するに当たって必要とする知識とプレゼンテーション能力を身に付けるために研修会を企画・開催した。研修会の企画・実施にあたっては、今年度はコロナウイルス感染症の影響により対面での実施は困難であることから、オンラインでの実施となった。その中で、自然体験による環境学習が、どこまでオンラインでその目的を達成できるのか検証を行った。

【テーマ】 オンラインでも自然の素晴らしさは伝わるのか？ どうしたらより伝わるのか？ ZOOMで検証してみよう！

【日時】 3月26日（金）10:30～

【参加者】 現地5名、オンライン4名、オンデマンド4名  
（計：14名）

	<p>YouTube 閲覧数 (3月末) 50</p> <p>【講師】佐野 淳之氏 (鳥取大学農学部教員、樹木医)</p> <p>【内容】</p> <p>重要里地里山五百選に選ばれた南部町の里山生物の素晴らしさや生き物の自然観察会をオンラインで実況中継することで、どれくらい伝えられるか、どうやったらより伝わるかを環境学習指導者が自ら体験しながら学びあう。</p> <p>環境学習は体験の学習ではあるが、今後も感染症や異常気象等で集まって学びあう場が少なくなることも考えられる。そこでオンラインでどこまで伝えられるか、またオンラインでは伝わらないことが何かを体験的に知り、今後の指導に活かす。</p> <p>参加者の募集には、リアル参加・ZOOMでの参加・YouTubeでのオンデマンド配信の視聴の募集を行った。</p>
支出額	6,272,618 円 /

事業名	ちびっこエコスタート事業及びエコ活ノート出前教室実施業務
事業内容及び成果等	<p>(1) ちびっこエコスタート事業</p> <p>概要</p> <p>幼児期から環境を大切にすることを育むため、幼稚園、保育園及び認定こども園 (以下「幼稚園等という。 ) の園児、職員等を対象とした環境学習会に講師を派遣することにより、園児、職員及び保護者へのエコ育 (幼稚園等や家庭での生活をエコの視点で見直し、人間も自然の一部であることに気づき、しっかりと生活リズムを身につけること) の啓発を図った。</p> <p>実施結果</p> <p>今年度は、エコ博士とスナバーズのエコ劇場に加え、ちびっこエコスタートのテーマソング「ちきゅうのともだち」を中心としたエココンサートを実施した。</p> <p>1. ちびっこエコソング「ちきゅうのともだち」CD 配布</p> <p>当センター職員と音楽関係者の協力により、「ちきゅうのともだち」をリニューアル録音し、CD を制作し CD を鳥取県内すべての幼稚園等に配布した。</p> <p>エココンサート活動の告知も行った。</p> <p>また、YouTube に「ちきゅうのともだち」ミュージックビデオ 2 本をアップロードし、園児や保護者により親しんでもらえるようにした (視聴 1200 回。2021 年 3 月 19 日現在)</p> <p>2. 園児向け環境学習研修会</p> <p>園児・保護者向け環境学習研修会</p> <p>・エココンサート</p> <p>「ちきゅうのともだち」を園児とともに合唱し、紙芝居や歌を通して、私たち人間も自然の一部であることに気づくように声掛けをした。太陽のリズムで生活することは、地球を大切に生活リズムであるということ</p>

で、地球が喜ぶ様子を思い描けるように、意欲付けを行った

・エコ戦隊スナバーズ

スナバーズという戦隊もののキャラクターに扮して「ストップおんだんか」演劇を行うことを通じて、園児たちが身近な生活に気を付けることで環境にやさしい暮らしができることをわかりやすく伝えた。

・「ちびっこエコスタート星取りシート」

その後5日間の家庭での取組みを星取りシートに記入したものを、園を通じて回収してもらい、一枚一枚にサインと頑張ったことへの評価を記入し返送して今後も継続してもらおうインセンティブとした。

・予約サイトの公開

主催者が調整しやすくするため、実施日の予定をカレンダーでいつでも見られるようにした。

### 3. 事業実施による成果

#### 参加人数

園児 330名

保護者 20名

職員 50名

一般 50名

#### 成果実績

・幼児を通じて、家庭の低炭素行動への変容と習慣化につながった。

・コロナ禍で、イベント実施が思うようにできない中で、オンラインの機能高め、「ちきゅうのともだち」のミュージックビデオやCD制作、YouTubeチャンネルへの投稿などで、歌を通じたちびっこエコスタートの発信をすることができた。

イラストバージョン

#### (2) エコ活ノート出前教室実施業務

##### 概要

家庭で取り組んでほしい環境に配慮した活動をまとめたエコ活ノートを教材にして、小学校に講師を派遣して出前教室を実施することにより、小学生及びその保護者へのエコ活(※)の啓発を図る。

※エコ活とは資源を大切に環境に配慮した生活を行うことをいう。

##### 活動実績 実施

- ・小学校 2校
- ・団体 2件
- ・動画作成 5本公開

総児童数(家庭数) 95名(教員や保護者含まず)

##### 出前授業実施概要

- |                            |     |           |
|----------------------------|-----|-----------|
| 1. 鳥取市立明德小学校 5年1クラス        | 32名 | 総合的な学習の一環 |
| 2. 鳥取市立鹿野学園 5年1クラス         | 30名 | 理科授業の一環   |
| 3. 北栄町 ほかほかプラザ放課後児童クラブ     | 20名 |           |
| 4. 鳥取県ガールスカウト 第4団 SDGs 学習会 | 15名 |           |
| 合計                         | 95名 |           |

	<p>出前教室実施スケジュール</p> <p>①9月26日 北栄町ほくほくプラザ「地球教室」</p> <p>②10月23日 鳥取市立明德小学校</p> <p>③12月16日 鳥取市立鹿野学園①</p> <p>④1月24日 鳥取県ガールスカウト第4団</p> <p>⑤2月10日 鳥取市立鹿野学園② 2.実施内容 〈実施校事前打合せ〉</p>
支出額	1,016,038 円 /

事業名	令和2年度「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」実施業務
事業内容及び成果等	<p>鳥取県最大の資源である豊かな自然が生み出す多種多様な再生可能エネルギーについて、未来を担う子どもたちが学習することにより、環境意識の醸成や環境活動の推進を図るとともに、「とっとり次世代エネルギーパーク」の認知度向上に繋げる目的で行った。</p> <p>県内在住の小学生（高学年）を対象に、とっとり次世代エネルギーパーク施設見学及び再生可能エネルギーをテーマとした自由研究及び工作を行うオンラインでの体験型講座を実施した。</p> <p>1 概要</p> <p>小学生（5・6年生）を対象に、再生可能エネルギーをテーマとした夏休みの自由研究を作成する体験型講座を4コース（東部2コース、中部1コース、西部1コース）開催した。</p> <p>〈講座内容〉</p> <p>①環境教室（STOP！おんだんか教室）</p> <p>②施設見学</p> <p>③ソーラー行灯工作</p> <p>④自由研究まとめ</p> <p>当初の計画では概ね上記のような内容のツアーを計画していたが、オンライン開催に切り替えるにあたり、できるだけこれに沿った形のプログラムを目指した。</p> <p>〈環境教室（STOP！おんだんか教室）〉</p> <p>当日行う予定だったプログラムの内容をスタッフが動画として撮影し、ワークノート（各参加者に送付）と合わせて学べるようにした。</p> <p>〈施設見学〉</p> <p>自然エネルギー施設の説明、施設見学についてはスタッフがツアーで見学予定だった施設へ取材を行い、その様子を撮影して動画にまとめることにより代替の教材とした。</p> <p>参加者は自宅等でこの動画を見ることにより、自然エネルギー施設の学習を行なうことができた。</p> <p>〈ソーラー行灯工作・自由研究まとめ〉</p> <p>資料、工作キット、ワークノートを各参加者に送付し、各自で取り組んでもらうこととした。ソーラー行灯は、作り方の動画を撮影し、参加者が工作に困ることのないよう配慮した。</p> <p>尚、動画配信の旨はセンターホームページ、facebookに掲載した（動画は現在もYou Tubeで公開している）。</p> <p>2 各コースの概要</p> <p>(1) 東部Aコース</p> <p>「太陽と風のエネルギーを研究しよう！」</p> <p>・日時：令和2年8月3日（月）</p>



- ・見学施設：鳥取放牧場（風力発電所、太陽光発電所）
- (2) 東部 B コース
  - 「太陽のエネルギーを研究しよう！」
  - ・日時：令和 2 年 8 月 4 日（火）
  - ・見学施設：東郷太陽光発電所
- (3) 西部コース
  - 「バイオマスと太陽のエネルギーを研究しよう！」
  - ・日時：令和 2 年 8 月 6 日（木）
  - ・見学施設：米子市クリーンセンター（バイオマス発電）、米子彦名エナトラパーク発電所（太陽光）
- (4) 中部コース
  - 「太陽と風のエネルギーを研究しよう！」
  - ・日時：令和 2 年 8 月 7 日（金）
  - ・見学施設：北栄ソーラーファーム、北条砂丘風力発電所

### 3 応募人数

鳥取県内の図書館 14 館、小学校 126 校、県庁市町村役場等 22 ヶ所に合計 17,251 枚のフライヤーと 324 枚のポスターを送付した。

- ・東部 A コース 14 名
- ・東部 B コース 18 名
- ・西部コース 60 名
- ・中部コース 16 名

計 108 件の応募があった。

〈オンライン開催に至った経緯〉

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター（以下センター）では例年「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」を開催しており、令和 2 年度も通常のプログラムによる開催を予定していたところ、年度当初より新型コロナウイルスの世界的な流行が見られていたことから参加人数を絞り、マスク着用、手指消毒の徹底など感染予防を織り込んだ開催を計画していた。

しかし 7 月に入ってから鳥取県内での感染者が増加し、また市中感染の発生が疑われるようになり実施数日前には市内の児童生徒にも感染が報告された。直前になり医療に従事している保護者などから問い合わせ及びキャンセルも相次ぎ、安心して実施できない状況となった。そこで、通常プログラムでの開催を見送り、各参加者に資料と工作キットを郵送した上でオンラインでの開催を行なうこととした。

### 4 YouTube 動画再生回数（令和 2 年 9 月 28 日現在）

- ・鳥取放牧場風力発電所 120 回
- ・米子市クリーンセンター 51 回
- ・米子彦名エナトラパーク発電所 57 回
- ・北条ソーラーファーム 43 回
- ・北条砂丘風力発電所 110 回
- ・STOP！おんだんか教室 56 回
- ・STOP！おんだんか教室（短縮版） 62 回
- ・ソーラー行灯の作り方 137 回
- ・自由研究おたすけ教室 51 回

### 5 工作キット・ワークノートの発送数

- ・工作キット、ワークノート発送先 116 件
- （ただし、内 108 件が参加者、残り 8 件は関係者）

### 6 参加者アンケート調査

「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」が、参加者の環境意識の醸成や環境活動の推進に繋がったかどうかを確認するための Web アンケート調査を実施した。

（送付数 108 件 回答数 35 回答率 32%）

動画「STOP！おんだんか教室」、「ソーラー行灯工作教室」、各施設紹介動画の感想を「1よ

	<p>くわからない、現地をみてみたい」から「5よくわかった」まで5段階評価で聞いたところ、STOP!おんだんか教室、ソーラー行灯工作教室では5や4の回答が多数であったが、各施設の紹介動画ではいずれも3が多数を占め、現地での体験でないことを考えると概ね視聴の目的は達成したと考えられる。</p> <p>また、鳥取県がゼロ・カーボンに取り組んでいる、という部分に関しては4、5の高い評価を占めており、一定の理解は得られたものと思われる。</p> <p>7 新型コロナウイルス対策</p> <p>令和2年度の「夏休み!自由研究再エネ体験ツアー」は新型コロナウイルスの世界的流行という特殊な状況下に企画されており、十分な対応も織り込んだ上での実行計画を作成した。最終的にオンライン開催となったが、万が一に備え万全の対策を用意した。</p> <p>◆準備したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非接触体温計</li> <li>・接触型体温計</li> <li>・消毒液</li> <li>・フェイスガード</li> <li>・透明マスク</li> <li>・予備マスク(使い捨て)</li> <li>・使い捨て手袋</li> <li>等</li> </ul>
支出額	2, 276, 076円 /

事業名	チーム「とっとりゼロ・カーボン・チャレンジ」運營業務
事業内容及び成果等	<p>家庭のCO<sub>2</sub>排出を一層推進するため、研究チームを充足し提言を行うとともに、本事業を通じて、県民への効果的な普及啓発や関係者の連携体制構築、地域の環境活動をリードする人材育成等に繋げる</p> <p>概要</p> <p>ウェブ会議にて家庭のCO<sub>2</sub>削減方策について研修を含めて検討し、検討プロセスをグラフィックレコーディングにより分かり易い絵姿としてまとめ県民へ発信する。</p> <p>とっとりエコサポーター等、先導的な環境活動実践者、行政機関(県、市町村)、大学(鳥取環境大学、鳥取大学)、関係事業者等にて構成。メンバーは以下リスト参照。2つのテーマ(創エネ・省エネ)にて分けて議論をしたが、実質的には各チームのテーマに縛られることなく、ゼロカーボンに向けた生活の在り方を総合的に議論。</p> <p>チームメンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野口浩二(日本インテライツ株式会社)</li> <li>・牧野健治(株式会社エナテクスソーラー取締役)</li> <li>・甲田紫乃(公立鳥取環境大学講師)</li> <li>・関口浩太(IGES)</li> <li>・小西正剛((株式会社ホープタウン取締役副社長)・市原辰太郎(学(環境大))</li> <li>・杉本一孝(県商工会青年部会長)</li> <li>・田淵裕章(株式会社田淵金物)</li> <li>・スタッフ:新家憲一郎</li> <li>・西村孝一(特定非営利活動法人 山陰エコライフ研究所)</li> <li>・吉田輝子(キミトデザインスタジオ)</li> <li>・野田邦弘(鳥取大学教授)</li> <li>・中井みずほ(Tottori Mama's)</li> <li>・田上智明(やまのすみか株式会社)</li> </ul>

- ・小原工 (チームエフォーツ)
- ・スタッフ：牧園善樹(環境大)

#### 実施結果

チーム「とっとりゼロ・カーボン・チャレンジ」の立ち上げ

・とっとりエコサポーターズを含む先導的な環境活動、まちづくり活動の実践者や市町村地球温暖化対策担当者、大学、温暖化対策関係事業者などメンバーを中心に構成した。・県民に分かりやすくイラストで発信するため、グラフィックレコーダー(話し合いのプロセスを含めて即時にイラストにできる人)として久和氏を選定し依頼した。

#### 【第ゼロ回】

日時：8月4日(月) 17:00～17:30

8月5日(水) 10:00～10:30

8月7日(金) 17:00～17:30 ※いずれか1回に参加

内容：

- ・ウェブエックスの利用方法の説明を兼ねた接続確認
- ・事業の趣旨説明
- ・メンバー自己紹介

プログラム：

1. 自己紹介(活動紹介)
2. 事業趣旨とゴールのイメージの共有(鳥取県山本係長)
3. 事業の流れの説明(山本ル)
4. 自由に交流(時間のある人のみ)

#### 【第1回勉強会】

日時：8月11日(火) 13:30～16:30

内容：持続可能な地域づくりに係る総論と先進事例、質疑応答、意見交換等形式：ウェビナー(Cisco Webex Meeting)

目的：

- ・ゼロカーボン政策の先進事例を知り、ゼロカーボンシティの具体的なイメージをつかむ
- ・防災や再エネ推進など多面的な視点でまちづくりをとらえる

プログラム：

13:30～15:00

「持続可能な地域づくりとは～総論と事例1～長野県の気候危機突破方針を読み解く～」

講師：地域政策デザインオフィス代表理事 田中信一郎氏

(元長野県環境部環境エネルギー課 千葉商科大学基盤教育機構准准教授)

授)

15:00～15:45 「事例2：エネルギーを踏まえた防災対策」

講師：地域政策デザインオフィス 理事 あんどうりす氏

15:45～16:30 「事例3：神奈川県松田町の再生可能エネルギー条例」

講師：地域政策デザインオフィス理事 谷口 信雄 氏

#### 【分科会の開催】

8月27日 10:00～創エネグループ意見交換会

8月27日 20:00～効エネグループ意見交換会

**【第2回勉強会】**

日時：9月10日（木）

内容：ゼロカーボン地域づくりの先進事例、質疑応答、意見交換等

形式：ウェビナー（Zoom）

目的：再生可能エネルギー推進へいち早く舵を切ったドイツに学び、一体どのような取り組みが行われているのか、より具体的にゼロカーボンシティのイメージをつかみ、鳥取県のゼロカーボンシティ構築イメージを膨らませ、議論を深める。

プログラム

（1）「令和新時代鳥取環境イニシアティブプランの概要」

講師：低炭素推進課 川口 愛氏

（2）「気候中立、ゼロカーボンとはードイツのエコタウンの事例からー」

講師：ドイツ在住環境ジャーナリスト 村上敦氏

**【第3回・第4回勉強会（意見交換会）】**

日時：9月16日（水）／10月13日（火）

内容：ゼロカーボンに向けた意見交換

形式：・オンライン会議（Zoom）

・ジャムボードを使用し、オンラインでイラストを編集することに挑戦した。

目的：

勉強会で得た知識と各メンバーの専門知識を持ち寄り、2050年の鳥取県がどうなっていきたいかを議論頂き、鳥取県民としてゼロカーボンシティのイメージを共有する。

**【エコ端会議】**

日時：3月27日（土）14:30

会場：オンラインとスイコーワークキャンプ（倉吉市）のハイブリッド開催

目的：とっとりエコサポーターズの勉強会として、ゼロカーボンイラストへの意見交換をすることで、エコサポーターを中心に、2050年のゼロカーボン社会について、広く地域で議論がされることを目指す。

講師：SUIKO WORK CAMP パソコン教室 中村春香先生

内容：今後、オンラインで発信をできるようなスキルを身に着けるため、Zoomなどインターネット上で会議や講座を開催する技術を身につける鳥取県の2050年の脱炭素化した社会についてイラストをもとに意見交換

事業実施による成果

・本事業を通じて、鳥取県民にゼロカーボンについて議論して頂く場の提供ができた。

・参加者の中には、初めてゼロカーボンについて学ぶ方もおり、再エネや省エネに関連し、社会の受容性を高める良い機会となった。

・事業者、エコサポーターズ、有識者など、従来コミュニケーションをとることがなかった主体が交流し、それぞれの立場でゼロカーボンの絵姿を議論することができた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパクトシティの形成、エシカル消費の推進、木質バイオマス利用促進等、各自の視点で、自分事として2050年ゼロカーボンを議論できる人材が増えた。</li> <li>・日本政府の2050年カーボンニュートラル宣言より前に、県民を中心として、ゼロカーボンシティの議論をできたことは、鳥取県の先進性を示す上でも有意義な取組みであった。</li> </ul>
	729,290円 /

事業名	地域における地球温暖化防止活動促進事業
事業内容及び成果等	<p>(1) 断熱ワークリーダーオンライン検定 (省エネルギーの普及)</p> <p>概要</p> <p>昨年度実施した断熱ワークリーダー育成事業では、訴求対象者から「都合がつけば参加したかった」「近かったら参加できた」など、実施要望の問い合わせが少なからずあった。そこで、今年度はオンライン開催をすることで、場所を問わずに断熱リーダーを育成できる事業として、30代~40代の住宅購入検討層をターゲットにした断熱ワークのリーダー検定を実施した。</p> <p>感染症予防の観点から、オンラインでの運営を前提とするが、Eラーニングによる研修及び検定を通して、断熱に関する知見普及及び仲間とともに安価に実践できるリフォーム実技を拡げるリーダーを育成すると同時に、情報拡散がしやすくすることで、断熱の「健康」「長寿」「経済性」「日々の快適性」についての社会的な知見を広めていくことを目指す。</p> <p>地域の住宅業界との連携により、住宅の断熱性能を高めたいと考える県民を増加させることで、すそ野が広く地域に密着した地域循環共生圏の構築を進めた。</p> <p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人宅(南部町)にて断熱DIYを実施</li> </ul> <p>オンライン検定作成にあたり断熱DIYの様子を紹介する動画コンテンツを作成した。また、断熱前後で気温を測定したことで断熱効果についての評価をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の断熱DIY(北栄町)</li> </ul> <p>日時：令和3年2月13日(土) 9:00~15:30</p> <p>■会場：ほくほくプラザ(北栄人権文化センター) 北栄町大島 1046-6</p> <p>■主なプログラム：</p> <p>図書室の壁や天井裏に断熱材を入れ、内窓を設置する。(事前工事をを行い、最後の一部を参加者が体験)</p> <p>温暖化防止センターより地球温暖化について、断熱の重要性を学ぶ。</p> <p>YKKAPより実験をしながら窓の断熱の重要性を学んだ。</p> <p>夏のグリーンカーテン用の木製プランターを作成した。</p> <p>(2) 気候メニューの発信</p> <p>概要</p> <p>食は、多くの人にとって一番身近で重要な行動であり、食材、調理方法、提供方法のあらゆる視点で、世界とつながっているが、その食の生産から流</p>

通廃棄にわたる温室効果ガス排出量は世界の排出量の30%に上ることがIPCC「土地利用特別報告書」で分かった。昨年度の取組みで気候メニューの意義については地元メディアを中心に、発信される機会がとて多く、関心を持つ人が増えてきた。このようなことから、飲食店で登録についての問い合わせもあり、需要サイドと供給サイド双方に影響を与えたことが分かる。

同時に、新型コロナ感染拡大防止の観点で、テイクアウトやデリバリーが増え、容器包装廃棄物の増加によるプラスチック汚染の原因となるプラ容器の利用抑制は急務である。

そこで、今回は、after コロナ、with コロナの新しい生活様式としてのデリバリーやテイクアウトを通じてこの容器包装を削減するあるいは環境負荷の低いものに代替する店舗について重点的に発信や代替容器の情報提供などを支援しながら、協力店舗を増やすことで、より食を通じた脱炭素行動への変容に繋げていく。

取材対応とHP、フェイスブックによる発信を推進員等の活動の場を確保しながら実施することによって、あらゆる層へ行動変容への促進を図った。

#### 実施結果

- ・打ち合わせ実施(昨年度協力店舗よりその後の状況ヒアリング&今年度のコロナ禍におけるテイクアウト等の容器包装、容器卸事業者からの情報提供など把握(～8月6日))

#### 9月10月

- ・店舗情報収集と似たようなプロジェクトの情報収集及び、店舗からの要望ヒアリング
- ・ヒアリング結果を反映しサイト編集

#### (3) 地元新聞紙とSNSを組み合わせた情報循環「エコスタグラム」

##### 概要

地元購読率80%以上の地元紙(日本海新聞)の毎月2回「特集グリーンウェイブとっとり」「エコ宣言+」等への寄稿・情報提供を通じて、地球温暖化問題や気候対策、先進事例などの情報を広く発信するとともに、同じテーマに沿った県民のライフスタイルや省エネ行動の画像投稿しハッシュタグによる拡散を促す。

情報の受け手が発信の担い手にもなることで、誰もが脱炭素行動に変容していることを日常的に発信した。

紙面を通じたエコ検定も実施し、双方向の情報交流を実施することで、多世代の情報交流の場を創出した。

#### 実施結果

- ・打ち合わせ実施
- ・新聞掲載2回(～8月6日)

#### 9月10月

- ・新聞掲載2回
- ・毎月2回打ち合わせ&掲載

#### 11月12月

- ・新聞掲載3回(マイクロトリップ、簡単窓断熱、毛布で保温鍋)

	<p>・1月26日1月2月に向けた打ち合わせ（ヨガ薬膳で免疫力アップ、ペレットストーブ、手作りみそ地産地消、アロマスプレーでマスク消臭）</p> <p>（4）テレワーク推進</p> <p>概要</p> <p>鳥取県におけるテレワーク推進への賛同を求めながら研修及び推進会議を実施した。</p> <p>コロナ後の新たな生活様式を模索するなかで、テレワークや遠隔教育や、遠隔診療、服薬指導等のニーズが顕在化している。このような、リモート化した取組みのメリットや課題を温暖化対策の視点から検討し、事例を発信しながらテレワークに取組む事業所を増やす。</p> <p>鳥取県に適したテレワークの定着を目指しながら、提言を仕組みづくりに反映させることを目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師1名</li> <li>・委員10名</li> <li>・推進員5名（事業所への情報収集・取材）×2事業所"</li> </ul> <p>実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブ会議を開催し、テレワーク状況を主な団体にヒアリングした。→テレワークを何らかの形で実施したところ7割、今後も何らかの形で続けたい7割（7月15日）</li> </ul> <p>9月10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会1回実施（現状報告）</li> <li>＊リモート実施率の低下（団体としては必要性が感じられないなど。個人としては継続を望む声と、ワーケーションなどの情報収集を望む声もあった）</li> </ul> <p>12月20日 第2回協議会実施</p> <p>＊会議等をリモートで実施する機会は増加したが、通勤はコロナ禍前と同様で、県内事業所での実施数はほとんどないことが実情。（実施しているのはIT企業と、全国規模の営業所の一部ということ）。そこで、テレワーク実施している事業所の現状と課題を広く語るためのセミナーをオンラインで実施することとなった。2月中旬予定。</p>
支出額	4,609,719円 /

# 財 産 目 録

NPO法人ECOフューチャーとっとり  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
令和 3年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現 金	41,131		
普通 預金	1,216,991		
鳥取銀行	(1,134,394)		
山陰合同銀行	(82,597)		
現金・預金 計	<u>1,258,122</u>		
流動資産合計		<u>1,258,122</u>	
資産の部 合計			<u>1,258,122</u>
		《負債の部》	
【流動負債】			
短期借入金	0		
未 払 金	755,100		
流動負債 計		<u>755,100</u>	
負債の部 合計			<u>755,100</u>
正味財産			<u><u>503,022</u></u>



# 貸借対照表

NPO法人ECOフューチャーとっとり  
全事業所

[税込] (単位: 円)  
令和 3年 3月 31日 現在

		《資産の部》	
<b>【流動資産】</b>			
(現金・預金)			
現金	41,131		
普通預金	1,216,991		
現金・預金計	<u>1,258,122</u>		
流動資産合計		<u>1,258,122</u>	
資産の部 合計			<u><u>1,258,122</u></u>
《負債の部》			
<b>【流動負債】</b>			
短期借入金	0		
未払金	755,100		
流動負債計		<u>755,100</u>	
負債の部 合計			<u>755,100</u>
《正味財産の部》			
<b>【正味財産】</b>			
前期繰越正味財産額	60,192		
当期正味財産増減額	<u>442,830</u>		
正味財産計		<u>503,022</u>	
正味財産の部 合計			<u>503,022</u>
負債・正味財産合計			<u><u>1,258,122</u></u>

# 活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ECOフューチャーとっとり

自 令和2年 4月 1日 至 令和 3年 3月 31日

## 【経常収益】

### 【受取会費】

正会員受取会費	31,000	
賛助会員受取会費	0	31,000

### 【受取寄付金】

受取寄付金		0
-------	--	---

### 【受取助成金等】

受取補助金		4,585,000
-------	--	-----------

### 【事業収益】

受託事業収益		12,805,632
--------	--	------------

### 【その他収益】

雑収益		10,156
-----	--	--------

受取利息		13
------	--	----

経常収益計

17,431,801

## 【経常費用】

### 【事業費】

#### (人件費)

給料 手当(事業)	5,875,906	
-----------	-----------	--

通勤費(事業)	304,000	
---------	---------	--

法定福利費(事業)	630,988	
-----------	---------	--

人件費計	<u>6,810,894</u>	
------	------------------	--

#### (その他経費)

業務委託費(事業)	652,300	
-----------	---------	--

諸謝金(事業)	1,236,600	
---------	-----------	--

臨時雇賃金(事業)	2,095,427	
-----------	-----------	--

印刷製本費(事業)	570,712	
-----------	---------	--

会議費(事業)		
---------	--	--

旅費交通費(事業)	240,026	
-----------	---------	--

車両燃料費(事業)		
-----------	--	--

通信運搬費(事業)	499,613	
-----------	---------	--

消耗品費(事業)	709,144	
----------	---------	--

賃借料(事業)	813,271	
---------	---------	--

保険料(事業)		
---------	--	--

研修費(事業)		
---------	--	--

諸会費(事業)	60,300	
---------	--------	--

役務費(事業)	1,227,377	
---------	-----------	--

修繕費(事業)		
---------	--	--

新聞図書費(事業)	14,124	
-----------	--------	--

支払手数料(事業)	5,680	
-----------	-------	--

雑費(事業)		
--------	--	--

その他経費計	<u>8,124,574</u>	
--------	------------------	--

事業費計

14,935,468

# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人ECOフューチャーとっとり

自 令和2年 4月 1日 至 令和 3年 3月 31日

【管理費】			
(人件費)			
給料 手当	80		
通 勤 費			
法定福利費			
人件費計	80		
(その他経費)			
業務委託費			
諸 謝 金	229,302		
臨時雇賃金			
印刷製本費			
会 議 費			
旅費交通費	15,450		
車両燃料費			
通信運搬費	50,051		
消耗品 費	447,709		
賃 借 料	410,561		
保 險 料			
研 修 費			
諸 会 費	40,000		
役 務 費	19,260		
修 繕 費	1,650		
新聞図書費	6,000		
支払手数料	74,140		
雑 費			
租税 公課	675,000		
他会計繰出金	0		
その他経費計	1,969,123		
管理費 計		1,969,203	
経常費用 計			16,904,671
当期経常増減額			527,130
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
返納金		0	
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			527,130
法人税、住民税及び事業税			84,300
当期正味財産増減額			442,830
前期繰越正味財産額			60,192
次期繰越正味財産額			503,022

# 財務諸表の注記

NPO法人ECOフューチャーとっとり

令和 3年 3月31日 現在

**【重要な会計方針】**

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

**(1). 消費税等の会計処理**

消費税等の会計処理は、本則課税方式によっています。

**【会計方針の変更】**

変更はありません。

**【事業費の内訳】**

事業費の区分は以下のとおりです。

(1/2)

[税込] (単位：円)

科目	地球温暖化防止推進事業 (県委託事業)	ちびエコ・エコ活ノート出前教室実施事業 (県委託事業)	自由研究ツアー実施事業 (県委託事業)	地域における地球温暖化防止活動促進事業 (国補助事業)	チームゼロカーボン	一般会計
(人件費)						
給料・役員報酬	2,748,373	229,030	507,795	2,253,288	137,417	3
通勤費	233,000	18,500	42,000	0	10,500	0
法定福利費	449,986	39,359	98,546	0	41,373	1,724
人件費計	3,431,359	286,889	648,341	2,253,288	189,290	1,727
(その他経費)						
業務委託費	66,000	208,000	168,300	0	210,000	0
諸謝金	236,400	15,000	0	655,200	330,000	0
臨時雇賃金	1,048,112	374,940	396,150	276,225	0	0
印刷製本費	189,529	0	381,183	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	94,654	1,134	58,847	85,391	0	0
車両燃料費	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	387,227	51,729	60,320	337	0	0
消耗品費	175,505	8,485	436,874	58,280	0	30,000
賃借料	375,188	69,861	77,261	290,961	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0
研修費	0	0	0	0	0	0
諸会費	11,500	0	48,800	0	0	0
役員費	237,740	0	0	989,637	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0
新聞図書費	14,124	0	0	0	0	0
支払手数料	5,280	0	0	400	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0
その他経費計	2,841,259	729,149	1,627,735	2,356,431	540,000	30,000
合計	6,272,618	1,016,038	2,276,076	4,609,719	729,290	31,727

(2/2)

[税込] (単位：円)

科目				事業費合計	管理費合計	合計
(人件費)						
給料・役員報酬				5,875,906	80	5,875,986
通勤費				304,000	0	304,000
法定福利費				630,988	0	630,988
人件費計				6,810,894	80	6,810,974
(その他経費)						
業務委託費				652,300	0	652,300
諸謝金				1,236,600	229,302	1,465,902
臨時雇賃金				2,095,427	0	2,095,427
印刷製本費				570,712	0	570,712
会議費				0	0	0
旅費交通費				240,026	15,450	255,476
車両燃料費				0	0	0
通信運搬費				499,613	50,051	549,664
消耗品費				709,144	447,709	1,075,853
賃借料				813,271	410,561	1,223,832
保険料				0	0	0
研修費				0	0	0
諸会費				60,300	40,000	100,300
役員費				1,227,377	19,260	
修繕費				0	1,650	
新聞図書費				14,124	6,000	20,124
支払手数料				5,680	74,140	79,820
雑費				0	0	0
租税公課					675,000	675,000
他会計繰出金					0	0
その他経費計				8,124,574	1,969,123	10,093,697
合計				14,935,468	1,969,203	16,904,671

前事業年度の年間役員名簿

(特定非営利活動法人の名称)

ECOフューチャーとっとり 令和2年度(令和3年度提出)

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	ねもと ちかひこ 根本 昌彦		H31年4月 1日～ R2年3月31日	
副理事長	きぬがわ ますひろ 衣川 益弘		H31年4月 1日～ R2年3月31日	
副理事長	やまもと るりこ 山本 ルリコ		H31年4月 1日～ R2年3月31日	R02年4月1日 ～R3年3月31日
理事	みやざき やすひろ 宮崎 靖大		H31年4月 1日～ R2年3月31日	
監事	あしかが ひろと 足利 裕人		H31年4月 1日～ R2年3月31日	

(備考)

- 1 「役名」の欄には、理事、監事の別を記載する。
- 2 「住所又は居所」の欄には、鳥取県特定非営利活動促進法施行条例第3条第1項に掲げる書面によって証された住所又は居所を記載する。
- 3 「就任期間」の欄には、左に記載された役員全員について記載し、「報酬を受けた期間」の欄については、報酬を受けたことがある役員のみについて記載する。

社員のうち10人以上の者の名簿  
ECOフューチャーとっとり 令和2年度(令和3年度提出)

氏名	住所又は居所
根本 昌彦	
衣川 益弘	
山本 ルリコ	
宮崎 靖大	
足利 裕人	
幸本 伊織	
服部 健也	
新家 憲一郎	
松本 俊寛	
牧園 善樹	
大崎 梨絵	
下川 創大	
佐藤 航平	